

# 外国語科におけるリテリングによる「思考力・判断力・表現力等」の育成

## To Raise the Students' "Ability to Think, to Judge, and to Express Oneself" through Retailing of English Language Courses

大里 弘美・川原 亜弥（呉市立昭和北中学校）

OSATO Hiromi and KAWAHARA Ami

キーワード：外国語科・リテリング・「思考力、判断力、表現力等」・ラウンドシステム・教科書

In this research, the relationship between retailing and the Students' "Ability to Think, to Judge, and to Express Oneself" is organized through utilizing the round system designated and implemented by the research school. We also considered the effectiveness of retailing in the first year of junior high school for developing the qualities and abilities of "Ability to Think, to Judge, and to Express Oneself". As a result, retailing may be particularly effective in developing the ability to utilize the learned expressions necessary for the qualities and abilities of "Ability to Think, to Judge, and to Express Oneself". Especially as the learning situation of the students progresses, it is necessary to aim for retailing that incorporates paraphrases step by step according to the acquisition status of vocabulary and expressions from reproduction.

### 1. はじめに

本研究の対象であるA公立中学校（以下、研究校）では、広島県教育委員会から「5ラウンドシステム」を活用した中学校外国語科の授業づくりに関する指定を受け、横浜市立南高等学校附属中学校（以下、横浜南と記載）で編み出された「5ラウンドシステム」を取り入れた授業づくりに取り組んでいる。「5ラウンドシステム」とは、金谷(2017)によって、次のように定義づけられている。

「5ラウンドシステムとは、教科書を1年間に4～5回使う横浜市立南高等学校附属中学校オリジナルカリキュラムである。年間4～5回といってもその回数だけ開本するという意味ではなく、教科書ユニットを繰り返して扱うカリキュラムという意味である。」

本研究では、「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編」（以下、学習指導要領と記載）に示された資質・能力の一つである「思考力、判断力、表現力等」を育成するために効果的な「5ラウンドシステム」の活用方法、特に「5ラウンドシステム」の「ラウンド5」に位置付けられているリテリングの有効性について考察する。

### 2. 研究の考え方

#### (1) リテリングについて

本研究ではリテリング力の育成を効果的に自己表現力に繋げるための指導について研究することから、リテリングについて整理する。

佐々木(2020)によると、「リテリングとは、読んだり、聞いたりしたことを、何らかの補助的なメモ等を見ながら、第3者に伝える活動」と示しているとし、その種類として次の2つを挙げている。

【リテリングの種類】（佐々木：2020）

- ① 初見のまとまりのある英文を読ませた後に、その内容についてリテリングをさせることで、内容理解度を図るテストとして利用されるもの。質問の難易度などの影響を受けないという点において、読解力を測定できるといわれている。
- ② 本文の内容理解を終えたのちに行い、その内容についてリテリングをさせることで、言語表現のインテイク活動やアウトプット活動として利用されるもの。

また、佐々木（2020）は中学校・高等学校教師がリテリングを行うときは、②を目的としたものになるだろうと示している。

次にリテリングと混同して使われるとする「リプロダクション」について整理する。佐々木（2020）の整理を次に示す。

表1 リテリングとリプロダクションの違い

リテリング (retelling)	リプロダクション (reproduction)
本文の言語形式を自分の言葉に言い換えたもの	本文と同じ、あるいはほぼ同じ言語形式で再生されたもの

表1から、リプロダクションは本文を暗記してそのままアウトプットすることと捉えることができる。このことと関連して佐々木（2020）は、音読、リプロダクション、リテリング、自己表現の4つの活動を「形式と意味」、「インテイクとアウトプット」、「内在化と再生と産出」の3つの観点で分類している。（表2）

表2 リテリングを取り入れた指導モデル（佐々木：2020）

形式重視		形式+意味重視	意味重視
インテイク	アウトプットI	アウトプットII	アウトプットIII
内在化	再生	再生+産出	産出
音読	リプロダクション	リテリング	自己表現

認知負荷が低い → 認知負荷が高い

表2によると、リテリングはリプロダクションと同様にアウトプットの活動であるが、リプロダクションは「再生」にとどまっておき、リテリングは「再生」と「産出」を目的としている。この「再生」と「産出」の違いについて、佐々木が実際に発話される英語の質からリテリングとリプロダクションを対応させているものが参考になる。（表3）

表3 実際に発話される英語の質と活動の種類

実際に発話される英語の質	生徒の英語習熟度	活動の種類
テキストの原文と同じかほぼ同じ	低い	リプロダクション
数か所だけをパラフレーズしたもの	中程度	リテリング
多くの箇所をパラフレーズしたもの	高い	リテリング

この分類は、生徒の英語習熟度に応じてどの種類の活動を求めるのかを判断する材料となる。また、表3で示されたパラフレーズの力を育成するためには、語彙や表現を言い返させる指導の必要性があるとし、それらを個人で考えさせてから、ペアやグループで共有することにより多種多様な

言い換えに触れることができるとしている。その中でも文構造を言い返させる指導は、既習の文法項目を使用することが多いため、既習表現の復習になるという利点にも触れている。

## (2) 「思考力・判断力・表現力等」について

中学校外国語科における「思考力・判断力・表現力等」とは「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う」と示されている。（「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語編」による）

また、この資質・能力と対応した評価の観点である「思考・判断・表現」の各領域の評価規準は、国立教育政策研究所による「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（以下、参考資料）」では、表 4 のとおり示されている。

表 4 各領域の「思考・判断・表現」の評価の観点に示されている評価規準  
（文部科学省、2020. 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 外国語」参照）

	思考・判断・表現
聞くこと	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題についてははっきりと話される文章を聞いて、必要な情報や概要、要点を捉えている。
読むこと	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について書かれた短い文章を読んで、必要な情報や概要、要点を捉えている。
話すこと （やり取り）	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、伝え合っている。
話すこと （発表）	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話している。
書くこと	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、書いている。

例えば、参考資料では「話すこと（やり取り）」の「思考・判断・表現」の評価の具体として次のような例を挙げている。

課題を「『AI の進歩と私たちの生活』に関する記事を読み、読んだことに基づいて考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合う。」と示し、その採点の基準は、単元を通して指導したことを踏まえて以下の 3 つの条件を全て満たしていることとし、次の条件を挙げている。

条件 1：読んだ英文を引用するなどしている。

条件 2：自分の考えたことや感じたことなどを理由とともに述べている。

条件 3：相手の考えを求めたり、話題を広げたり深めたりしながら対話を継続している。

条件 2・3 の自分の考えについて根拠をもって述べたり、話題を広げたりするためには、課題で提示された記事で示されている表現だけでなく、これまで生徒が蓄積してきた既習表現の中から、適切なものを選び即興的に表現する力が求められる。リテリングの利点であるパラフレーズを行うことによる既習表現の復習は、この「思考・判断・表現」の評価規準に示される目的や場面、状況に応じて事実や自分の考えを表現する力を育成することに効果があると考えられる。

## (3) 「5 ラウンズシステム」について

研究校が指定を受け取り組んでいる「5 ラウンドシステム」の詳細を金谷（2017）に基づいて次に示す。

### ① 基本的な授業構成

ラウンド制を基に教科書中心の展開を約 35 分と各ラウンドシステムの学習内容等以外に様々

な言語活動（以下，ウォームアップと記載）を行う約 15 分の 2 つから構成されている。ウォームアップは，ラウンドシステムにおいて教科書本文を活用してインプットしたことをアウトプットする時間と位置付けられている。

- ② 各ラウンドシステムの学習内容等（本研究は 1 年生のみを扱う）  
各ラウンドシステムの学習内容等の詳細を表 5 に示す。

表 5 各ラウンドシステムの学習内容等（金谷：2017 を参照）

ラウンド	学習内容	○ウォームアップ活動 ●目標
1	イントロダクション：トピック導入→パーソナライズ	○チャンツ，一般動詞の確認 ●一般動詞を知り，使える。Unit の概要を理解できる。
	リスニング 1：どんな場面か想像させる	
	リスニング 2：教科書扉ページの QA を考えさせる。	
	リスニング 3：ピクチャーオーダーリング	
	リスニング 4：なりきりリスニング	
	リスニング 5：なりきりスピーキング	
2	教科書の振り返り（ピクチャーカードを使って）	○基礎英語活動（「基礎英語 1」を聞く，シャドーイング，自己表現を付け加えさせる） ●形容詞（動詞）を知り，使える。Unit の音と文字が一致できる。
	ハンドアウトの文字を見せ，自分の中で音声化	
	リスニング 1：CD を聞き，聞こえた順番に文の並び替え ペア・全体で確認（ペアで協力しながら）	
	リスニング 2：CD を聞きながら，教科書を開いて音と文字の一致	
3	復習 教科書の振り返り	○基礎英語活動，会話活動 ●Unit の新出単語の発音ができる。Unit の音読ができる。音読チェック。会話活動。
	リスニング 1 開本して文字を見ながら	
	新出単語（フラッシュカード，ワードリスト）	
	コーラルリーディング	
	バズリーディング	
	一斉読み	
	リスニング 2 CD の音を聞き，発音の確認	
	オーバーラッピング 音声 CD と同時に	
	オーバーラッピングマックス リピート用の CD を使って	
	バズリーディング	
	一斉読み	
ライティング		
4	復習 教科書の振り返り	○グリーティング，スモールトーク，スモールトークで話したことのライティング ●ラウンド 4 シートの音読ができる。
	教科書の音読，一斉読み	
	穴あき音読ペア練習	
	ライティング	
5	教科書の振り返り	○グリーティング，スモールトーク，スモールトークで話したことのライティング ●Unit の内容を自分の言葉で伝えられる。
	穴あき音読	
	ピクチャーカードを見ながら，ストーリーを頭の中で考える。	
	リテリング 1 ペアで	
	リテリング 2 ペアを変えて	
	リテリング 3 グループで	
	リテリング 4 クラスで（何人か）	
	AET の書いたリテリングのモデルを読む	
	黙読→音読→気に入った表現をチェック→再度ストーリーを考える	
	リテリング 5 ペアで	
	リテリング 6 グループで	
ライティング		

(4) 「5 ラウンドシステム」で育成される力と「思考力・判断力・表現力等」との関連について

(3) で「5 ラウンドシステム（以下，ラウンドシステムと記載）において教科書本文を活用してインプットしたことをウォームアップでアウトプットする時間と位置付けられている」と示されている。つまり，ラウンドシステムはインプットが主な言語活動であり，アウトプットの言語活動はラウンドシステム以外の独自の学習活動で補完する必要がある。（このラウンドシステム以外の学習活動について金谷（2017）では「ウォームアップ」としているが，本研究では「ウォームアップ」

という言葉が「ラウンドシステム」を行うための学習活動をイメージする可能性があると考えため「独自の学習活動」と記載することとする。）

取り扱う必要のあるインプットとアウトプットの言語活動について内容を確認するため、学習指導要領で育成することが求められている資質・能力とラウンドシステムで育成される力について5領域と評価の観点に基づいて整理した。

表6 ラウンドシステムで育成される力と外国語科5領域との関係（数字はラウンド番号）

【研究校における第1学年Unit1～Unit6の範囲】

	聞く	読む	話す（やり取り）	話す（発表）	書く
知識・技能	1・2	3・4（音読） 正確に			3・4
思考・判断・表現		3・4（音読） 内容が伝わるように	5（リテリング）	5（リテリング）	5（リテリング）
主体的に学習に取り組む態度					

※「主体的に学習に取り組む態度」の育成については、「知識及び技能」並びに「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を一体的に育成する過程を通して育成されることに鑑み、一定の学習を経たのちに評価するものであることから、本研究では扱わないこととする。

ラウンド1・2で「CDで教科書本文（以下、本文と記載）を聞く」、ラウンド3・4で「本文を音読する・本文を書き写す」、ラウンド5で「本文内容をリテリングする」学習活動が設定されており、表6に示す領域と評価の観点に対応させた。本稿で扱う教科書内容の第1学年Unit1～Unit6の範囲であることから、リテリングが「話すこと（やり取り）（発表）」と「書くこと」の領域における「思考・判断・表現」としたが、今後、より多くの語数を扱う読み物教材がでてくるなど、学習が進むことに応じて、それぞれの領域でどの評価の観点まで扱うのかは、指導者の意図による。

このことを考えるにあたり佐々木（2020）が示すリテリングの手順が参考になる。佐々木はリテリングの手順を「Ⅰ 内容理解」「Ⅱ 音読による内在化」「Ⅲ 発話情報の選定」「Ⅳ 発話への変換」「Ⅴ 発話」としており、ラウンド1・2が手順のⅠ、ラウンド3・4を手順のⅡ、ラウンド5のリテリングは手順のⅢ・Ⅳ・Ⅴに対応すると考えられる。

例えば、ラウンド5のリテリングについては、今後の学習の進展により次のように考えられる。佐々木は、Ⅲにある発話情報について、「要点だけを発話させる」、「要点に細部情報を加えて発話させる」という2つの種類があるとしている。語数の多い教材における発話情報の選定には、本文内容の要点と細部情報が何であるかを捉えさせる必要がある。このように考えると、ラウンド5のリテリングは、「聞くこと」「読むこと」の領域の「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力の育成も可能となると考えられる。

### 3. 研究校の授業づくりの実際

#### (1) 研究校のカリキュラム作成と授業分析

「2. 研究の考え方」に基づき、研究校のカリキュラムを作成する。ラウンドシステムを活用したカリキュラムの作成の方法は次のとおり。

- ① ラウンドシステムで補えない資質・能力を独自の学習活動に設定する。
- ② 「思考力・判断力・表現力等」の資質・能力を評価するためのコミュニケーションを図る目的や場面、状況を設定する（自己表現の機会：パフォーマンスゴール）。
- ③ ①②で作成したカリキュラムに基づいた授業実施を行い、授業者、研究校英語担当教員、著者で授業について協議し、見直しを図る。

図1に研究校のラウンドシステムを取り入れたカリキュラムの構想図を示す。ラウンド5のリテリングを行った後に「思考力・判断力・表現力等」の資質・能力を評価するためのコミュニケーションを図る目的や場面、状況として自己表現の機会を設定している。



図1 リテリング力を自己表現力に繋げるカリキュラムの構想図  
(北中タイム：独自の学習活動，パフォーマンスゴール：自己表現の機会)

表7 生徒の実態に応じたラウンドシステムの見直しの状況

ラウンド	学習内容 →は見直し内容	○独自の学習活動◇目標：独自の学習活動 ◆目標：ラウンドシステム
1	インTRODクシヨン：トピック導入 リスニング1：どんな場面か想像させる リスニング2：教科書扉ページのQ & Aを考えさせる。→教科書内容のQ & Aはリテリングの足場架けになるため、毎時間行う。 リスニング3：ピクチャーオーダリング リスニング4：なりきりリスニング→削除 リスニング5：なりきりスピーキング	○①チャンツ（曜日など、Do you like soccer?）、 ②語彙シート（形用詞）を読む、③ Small Talk “My Treasure”（個別練習、ペア練習、言いたかったのに言えなかった表現があれば、リクエストシートに記入する） ◇ “My treasure”についてまとまりよく話す。 ◆ Lesson 6のストーリーの概要を理解する。
検討内容と改善内容 ▽ ラウンドシステムの言語活動には、「話すこと（やり取り）」「書くこと」が少ないため、「読むこと」は教科書に読み物教材が提示される3学期から取り組むこととしている。独自の学習活動に「話すこと（やり取り）」「書くこと」を設定する。 ▽ リスニング4のなりきりリスニングは教師が生徒の学習状況を把握することが難しいため削除する。		
2	教科書の振り返り（ピクチャーカードを使って） ハンドアウトの文字を見せ、自分の中で音声化→削除 リスニング1：CDを聞き、聞こえた順番に文の並び替え→削除 ペア・全体で確認（ペアで協力しながら）→削除 リスニング2：CDを聞きながら、教科書を開いて音と文字の一致	○①チャンツ（曜日など、Does Hiro like sports?）、②語彙シート（動詞）を読む、③ Small Talk（ペア、代表ペアが発表をする、代表ペアの発表について、よかった点などの気付きを交流する、振り返り（使用した表現から効果的だったものを記入する）、言いたかったのに言えなかった表現があれば、リクエストシートに記入する。） ◇自分のことについて、即興で伝え合う。 ◆ Lesson 6のストーリーについて、音声と文字を一致させる。
検討内容と改善内容 ▽ リスニング1で生徒は特徴的な単語や文頭の単語のみに着目して文を並びかえていた。ラウンド3後に実施した音読テストで本文を見て読むことができない生徒がいた。このことから、ラウンド2・3の学習で文字と音の一致が不十分な生徒がいると捉えたため、リスニング2において本文をなぞりながら音読する活動により重点を置いた。		
3	復習 教科書の振り返り リスニング1 開本して文字を見ながら 新出単語（フラッシュカード、ワードリスト）→ラウンド2リスニング2の前に移動。 コーラルリーディング バズリーディング 一斉読み リスニング2 CDの音を聞き、発音の確認 オーバーラッピング 音声CDと同時に オーバーラッピングマックス リポート用のCDを使って バズリーディング 一斉読み ライティング	○①チャンツ（曜日など、Does Hiro like sports?）、② Small Talk（ペア、代表ペアが発表をする、代表ペアの発表について、よかった点などの気付きを交流する、振り返り（使用した表現から効果的だったものを記入する）、言いたかったのに言えなかった表現があれば、リクエストシートに記入する。） ◇自分のことについて、即興で伝え合う。 ◆ Lesson 6を場面に合うように音読する。
検討内容と改善内容 ▽ 1単位時間に合計8回本文を読んだが、多くの生徒はたいくつそうであったため、全体の音読の回数を削減する。 ▽ 例えば、「in her hand」はCDでは「イナー hand」と聞こえた。これは「h」の音が脱落し、「n」と「er」が連結している。このような、いわゆる自然な速さで話す際に生じる連結や脱落等によって、聞き取りが困難な箇所について教師が説明し、その仕組みを理解して、CDと同じように読むことを指導する。		

4	復習 教科書の振り返り	○①チャンツ (曜日など, "I like you"), ② Small Talk (ペアでやり取りをする。振り返り: 言いたかったのに言えなかった表現があれば, リクエストシートに記入する。) ◇自分の好きな有名人などについて, 即興で伝え合う。 ◆文構造を意識しながら, Lesson 6 を音読する。ラウンド4シートの音読ができる。
	教科書の音読, 一斉読み	
	穴あき音読ペア練習	
	ライティング	
①検討内容と改善内容 ▽ ラウンド4と5のレベルに大きな差があると研究校英語担当教員が感じている。ラウンド5のリテリングを可能とするためには, ラウンド4までの活動で, 本文の内容理解を促したり, 既習表現を活用した表現力を高めたりしておかなくてはならない。そのため, 計画的な自己表現活動とパラフレーズの指導も行うこととする。		
5	教科書の振り返り	○チャンツ (曜日など, "I like you"), ② Small Talk (ペア, 代表ペアが発表をする, 代表ペアの発表について, よかった点などの気づきを交流する, 振り返り (使用した表現から効果的だったものを記入する), 言いたかったのに言えなかった表現があれば, リクエストシートに記入する。) ◇ 自分の身近な人について, 即興で伝え合う。 ◆ Lesson 6 の内容を自分のことばで表現する。
	穴あき音読→レベル1のみ	
	ピクチャーカードを見ながら, ストーリーを頭の中で考える。	
	リテリング1 ペアで	
	リテリング2 ペアを変えて	
	リテリング3 グループで	
	リテリング4 クラスで (何人か)	
	AETの書いたリテリングのモデルを読む	
	黙読→音読→気に入った表現をチェック→再度ストーリーを考える	
	リテリング5 ペアで	
リテリング6 グループで		
ライティング		
検討内容と改善内容 ▽ リプロダクションのレベルの生徒と複数パラフレーズを取り入れたリテリングのレベルの生徒が見受けられた。リプロダクションのレベルの生徒にパラフレーズを意識させるために, 生徒の発表の中のパラフレーズを価値づけ, パラフレーズができていない生徒に徐々に意識させていく指導の工夫が必要である。		

## (2) 生徒の思考力・判断力・表現力等に関する状況と分析

- ① 調査対象 研究校 (公立中学校) 第1学年5クラス 178人
- ② 調査時期 2020年7月～10月
- ③ 調査結果

生徒の思考力・判断力・表現力等に関する状況を把握するために, 「話すこと (やり取り)」と「書くこと」のパフォーマンステストを実施した。

表8 「思考・判断・表現」の評価の観点におけるパフォーマンステストの結果

		問題の内容	平均通過率 (%)
①	発	「My treasure」をテーマにした発表 (メモのみ原稿なし)	92.5
②	書	与えられたメモをもとに5文程度で書く問題	78.4
③	書	自分のことについて5文程度で書く問題	58.2

②・③の誤答には, 5文程度という条件は満たしているが, 単語のスペルミスや動詞が抜ける, be動詞と一般動詞を混同しているなど, 正確に書くことに課題があることが分かった。

次に7月に実施したUnit1～3における筆記のリテリングとパフォーマンスゴールでの自己表現 (「書くこと」) の状況について分析する。表9は自己表現 (テーマ「My treasure」) の生徒の書いた語数の割合である。生徒が使用した語数によって3つのカテゴリーで整理した。

表9 自己表現 (テーマ「My treasure」) において生徒が書いた語数

語数	0～20	20～57	58以上
人数割合 (%)	4	84	12
平均 (語数)	40.53語		

次に表9で示した3つの各カテゴリーから抽出した生徒が記載したUnit3の①リテリング, ②自己表現「My Treasure」を次に示す。

【語数0～20のカテゴリー】ア～オは表10に示す言い換えの種類

ア He ~~is~~ likes soccer.  
 イ He is Paul. She is Kumi.  
 ア Paul ~~is~~ like rock. But Paul is don't  
 like sing.  
 イ He is Ken. She is Emma.  
 ア She is like Japanese food.  
 カ She is play cook.

① リテリング

My Treasure

紹介するもの (ダンスシューズ)

This is my treasure.  
 It is Dance shoes sense.  
 It is for Dance.  
 I enjoy Dance.  
 It is enjey Dance.

②自己表現

【語数21～58のカテゴリー】ア～オは表10に示す言い換えの種類

イ He is Ken.  
 This is a ball in hes bag.  
 ア He likes soccer.  
 ア He plays it at school every day.  
 オ He good at soccer.  
 イ She is Kumi.  
 イ He is Paul.  
 ウ They are talk about music.  
 ア He likes rock.  
 ア He don't play the guitar but he sing  
 ア He sing very well.  
 イ He is Ken.  
 イ She is Emma.  
 ウ They are talk about food.  
 ア She have a about bento.  
 ア She likes Japanese food.  
 ア She likes dashimaki.  
 ア She sometimes cook it for her family.  
 オ Her family is looking foward to it.  
 オ Emma's father teaches cooking to her.  
 オ She practices ~~to~~ very hard.

① リテリング

紹介するもの (本棚)

This is my treasure.  
 It's a book shelf.  
 It's my birthday present.  
 I like books.  
 I read every day.  
 It's fun and interesting.  
 I have many books.  
 But I want many more books.  
 So I will buy more books.

②自己表現



【語数 59 以上のカテゴリー】 ア～オは表 10 に示す言い換えの種類

ア	He is Ken.
イ	He shows his treasure.
ウ	His treasure is a soccer ball.
ア	He likes soccer.
ア	He plays at school every day.
イ	She is Kumi. He is Paul.
エ	She asks "Do you like music?"
エ	He answers "Yes, I do. I like rock."
ア	He doesn't play the guitar.
オ	He likes singing.
イ	He is Ken. She is Emma.
エ	He asks "What do you have in your hand?"
エ	She answers "I have a book about bento."
ア	She likes dashimaki.
オ	Emma's father teaches cooking to her.

①リテリング

生徒のリテリングを分析すると、次の種類の言い換えが使われていた。表 10 に言い換えの種類を示す。

表 10 生徒のリテリングに使用した言い換えの種類

	言い換えの種類
ア	主語の置き換え
イ	登場人物の名前の紹介
ウ	場面の状況の説明
エ	本文の言語形式を自分の言葉に言い換えたもの
オ	本文の続き等、自分で創作したもの
カ	その他

語数【0～20】のカテゴリーの生徒のリテリングは、主語の置き換えと登場人物の名前の紹介の2種類であった。また、be動詞と一般動詞を同時に使用する文法的な誤りや、本文では登場人物の好きなことと表現されていることを好きではないと表現するなど内容に関する誤りもある。

語数【21～58】のカテゴリーの生徒のものは、主語の置き換え、登場人物の名前の紹介、場面の状況説明と本文の続き等、自分で創作したものの4種類で、本文の言語形式を自分の言葉に言い換えたものはなかった。また、文法的な誤りはほとんどなく、本文内容の誤った表現もない。

紹介するもの ( そろばん abacus )
I like abacus. I like playing abacus.
Abacus is brown and black.
It is long.
This is a present from my teacher.
I have used this for 4 years.
I started abacus when I was 9 years old.
I sometimes practice at home.
I teach my brother an abacus.
Abacus practice is difficult. I practice hard.
Abacus is difficult.
Abacus is difficult so I practice.
I want to play the abacus better.
So I practice hard.

②自己表現

語数【59～】のカテゴリの生徒のものは、本文の言語形式を自分の言葉で言い換えたものも含まれ、5つの種類が使用されていた。また、文法的な誤りはほとんどなく、本文内容の誤った表現もない。

以上のことから、自己表現で多くの語数を用いて表現できる生徒は、リテリングにおいて本文の言語形式を自分の言葉で言い換えて表現できる傾向にあるのではないかと予想される。また、文構造を正確に表現できることも、自己表現で使用する語数の量が増加することに関連すると予想される。

以上のことから、リテリングに求められる本文の言語形式を自分の言葉に言い換えることができる力を育成することは、自己表現で使用する語数の増加が予想されることから、「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を育成することに効果がある可能性がある。

#### 4. まとめ

本研究では、研究校が指定を受け実施しているラウンドシステムのリテリングと「思考力、判断力、表現力等」との関連を整理し、中学1年（10月まで）におけるリテリングの「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力の育成への有効性を考察した。

その結果、リテリングは「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力の育成に効果がある可能性があること、また、生徒の英語学習の状況によってリプロダクションからはじめ、語彙や表現の習得状況に応じて段階的に本文の言語形式を自分の言葉に言い換えるパラフレーズを取り入れたリテリングを目指す必要があることが分かった。

今後は、今回、中学1年で実施したリテリングと「思考力、判断力、表現力等」への効果を検証する取組を引き続き中学2・3年生において行う。特に、本文の言語形式を自分の言葉に言い換える力は、語彙と表現の習得が進む中学2・3年生でより顕著な効果が期待できる。また、中学3年生の卒業時に期待できるリテリングの姿を考察し、中学3年間を見通したリテリング指導の在り方を研究することで、生徒の実態に合った効率的なラウンドシステムの在り方も考察する予定である。

#### 【参考文献】

- 佐々木啓成. (2020). 『リテリングを活用した英語指導 理解した内容を自分の言葉で発信する』  
東京：大修館書店
- 金谷憲. (2017). 『英語運用力が伸びる5ラウンドシステムの英語授業』東京：大修館書店
- 文部科学省. (2017). 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編』東京：開隆堂出版
- 文部科学省 (2020) 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 外国語」東京：  
国立教育政策研究所教育課程研究センター
- 小野尚美他. (2018). 『英語教材を活かす—理論から実践へ—』東京：朝日出版社
- 根岸雅史他. (2015). 『New Crown ① ENGLISH SERIES New Edition』東京：三省堂

〈キーワード〉

外国語科・リテリング・「思考力、判断力、表現力等」・ラウンドシステム・教科書

大里 弘美（現代文化学部言語文化学科国際コミュニケーションコース）

川原 亜弥（広島県呉市立昭和北中学校）

（2020. 12. 03 受理）